

スマートフォンに潜む「魔の手」から身を守る

鳥取県鳥取大学附属中学校 2年 ^{やまもと}山本 ^{ゆうは}結羽



私は、中学校入学前にスマートフォンを買ってもらいました。

スマートフォンでは好きなことをたくさん調べたり、アプリを活用して学校の授業の予習、復習などができたり、やりたいことが盛りだくさんで、買ってもらった当初は嬉しくて、あれもしたい、これもしたいとわくわくしました。

しかし、母がたくさんのアプリに制限をかけていたため思うように使うことができませんでした。最初はなぜ制限をかけるのかと不満に思っていたのですが、テレビでSNSが関係した犯罪事件やスマートフォンなどの情報機器が原因で犯罪に手を染めてしまった若者たちのニュースをたくさん見て「スマートフォンにはたくさんの危険が潜んでいるのではないか」と次第に思うようになりました。

一度インターネットに書き込んだ情報を削除することは、ほぼ不可能ということをよく聞きます。軽い気持ちで個人情報やインターネットにあげてしまうと、自分も他人も傷ついてしまったり、思わぬ形で犯罪に巻き込まれてしまうこともあるかも知れません。

例えば、SNSで知り合った顔も知らない人に会って犯罪に巻き込まれ最悪の場合、命を落としてしまうことも考えられます。

また、SNSに投稿されている高額な報酬を記載したバイトの募集に軽い気持ちで応募してしまい、指示を受けて言われるがままに法を犯す行為をして逮捕されてしまうこともあります。自分でも気づかないうちに犯罪に手を染めてしまうことも十分考えられるのです。

そして、そのような事件の十代、二十代の若年層被害者割合は年々増え続けています。また、私たちと同じ中学生の被害者割合も多くなっています。

なぜ、顔も知らない人に会うことが怖くないのでしょうか。

それは、オンライン対戦のゲームやSNSが普及し、画面内で知らない人たちと会話することに慣れ、ネット内の人に恐怖を覚えなくなっているからだと思います。ネットが原因で犯罪にあってしまった記事を読んだとしても「私は大丈夫。関係がない。」と安易にネットの世界を信用してしまうことが多くなっているのです。

しかし、その思い込みによってネットから伸びる「魔の手」に掴まれたり、掴まれそうになることもあるのです。

私も実際に小学生のときに体験したことがあります。

学校のタブレットパソコンでブラインドタッチ練習も兼ねてタイピングゲー

ムをしていた時、チャットで対戦相手から個人情報を読み出そうとする質問や淫らな言葉がたくさん送られてきたことがあり、怖くなったことがありました。同年代だと思っていたら違っていました。私も気づかないうちにネットの世界を信用してしまっていたのです。

そのようなことを体験してしばらくしてからゲームの使い方が大幅に変更されて、タイピングゲーム時のチャット使用のオンオフが自分で切り替えられるようになり、安心してゲーム対戦だけを楽しむことができるようになりました。

そのことを考えると、母の私に対するアプリ制限は似ているのではないかと思います。すべてのアプリを使えるようにしていたら知らず知らずのうちにネットからのびる「魔の手」に掴まれ、犯罪に巻き込まれて被害者になってしまったり、犯罪に手を染め加害者になってしまうことも考えられます。

しかし、アプリ制限をすることによってスマートフォンに潜むあらゆる危険やアプリを通して入ってくる不適格な情報から私を守ってくれ、安心してスマートフォンを利用出来るのだと思います。

スマートフォンは便利な情報機器で、今では私たちの生活に欠かせないものとなり、インターネットも同じくらい大切な生活の「一部」となっています。

しかし、便利な中には必ず危険も潜んでいるということも忘れてはいけません。「自分は大丈夫。関係ない。」と考えるのではなく、誰もが被害者、加害者になりかねないということを忘れないようにすることが大切だと思います。

また、個人個人でスマートフォンなどの情報機器やインターネット使用についてのルールを決めたりと、ネットに潜む危険から身を守りながら上手に付き合っていくことが私たちにとって最も重要なことだと思います。